

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、幼稚園及び学校における幼児、児童及び生徒の発育及び健康状態を明らかにし、学校保健行政上の基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査の対象

(1) 本調査は、幼稚園、小学校、中学校及び高等学校のうち、文部科学大臣が調査年ごとに指定する幼稚園及び学校(以下「調査実施校」という。)に在籍する、5歳から17歳(平成25年4月1日現在の満年齢)までの幼児、児童及び生徒(以下「調査実施校在籍者」という。)を対象とする。

(2) 本調査においては、以下のとおり、掲載項目ごとに調査対象者が異なる。

ア 発育状態(2～8頁)：発育状態調査対象者…調査実施校在籍者のうちから年齢別男女別に抽出された者

イ 健康状態(9～14頁)：健康状態調査対象者…調査実施校在籍者全員

ウ 肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率(15、16頁)：発育状態調査対象者と同じ

3 調査事項

本調査は、目的別に集計するため、2種類の調査を行っており、それぞれの調査項目は以下のとおりである。

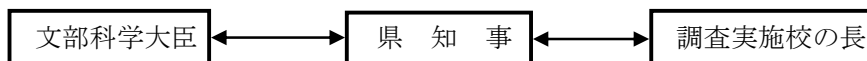
(1) 発育状態調査(身長、体重、座高)

(2) 健康状態調査(栄養状態、せき柱・胸郭の疾病・異常の有無、視力、聴力、眼の疾病・異常の有無、耳鼻咽喉疾患・皮膚疾患の有無、歯・口腔の疾病・異常の有無、結核の有無、心臓の疾病・異常の有無、尿、寄生虫卵の有無、その他の疾病・異常の有無、結核に関する検診の結果)

4 調査の方法

(1) 本調査は、学校保健安全法による健康診断の結果に基づき、平成25年4月1日から6月30日の間に実施した。

(2) 調査系統は、次のとおりである。



5 調査実施校数及び調査対象者数等

本県の調査実施校数、調査対象者数及び抽出率等は、次のとおりである。

表1 調査対象者数(福島県)

区分	県内の学校(園)数 (校、園)	調査実施校数 (校)	県内学校(園) の在籍者数 A (人)	発育状態調査 対象者数 B (人)	抽出率 B/A (%)	健康状態調査 対象者数 C (人)	抽出率 C/A (%)
幼稚園	344	38	9,975	1,240	12.4	1,738	17.4
小学校	483	60	100,579	5,492	5.5	22,683	22.6
中学校	241	40	57,446	4,541	7.9	16,033	27.9
高等学校	112	30	55,473	2,557	4.6	14,080	25.4
計	1,180	168	223,473	13,830	6.2	54,534	24.4

(注) 1 県内幼稚園の在籍者数は、5歳児のみの人数である。

2 発育状態調査対象者は、調査実施校在籍者のうちから年齢別男女別に抽出された者であり、健康状態調査対象者は、調査実施校在籍者全員である。

II 調査結果の概要

第1 発育状態

身長、体重及び座高の本県平均値と全国平均値を年齢別にみると、表1から表3のとおりである。

1 身長

男子の身長は、6歳から10歳、13歳及び16歳の各年齢で前年度より伸びている。

女子は、6歳、10歳及び11歳の各年齢で前年度より伸びている。

また、10歳及び11歳では、女子が男子を上回っている。

全国との比較でみると、男子は5歳、6歳、8歳から14歳及び16歳の各年齢で、女子は5歳、6歳、8歳及び10歳から12歳の各年齢で、全国平均を上回っている。(表1)

表1 年齢別 身長の平均値 (単位: cm)

区 分	本 県						全 国		本県と全国との差		
	男			女			男	女	男	女	
	H25 (A)	H24 (B)	前年差 (A-B)	H25 (C)	H24 (D)	前年差 (C-D)	H25 (E)	H25 (F)	(A-E)	(C-F)	
幼稚園	5歳	110.7	110.9	△ 0.2	109.8	110.1	△ 0.3	110.4	109.6	0.3	0.2
	6歳	116.9	116.8	0.1	115.7	115.6	0.1	116.6	115.6	0.3	0.1
小学校	7歳	122.4	121.8	0.6	121.6	121.7	△ 0.1	122.4	121.6	0.0	0.0
	8歳	128.7	127.6	1.1	127.7	128.0	△ 0.3	128.2	127.3	0.5	0.4
	9歳	134.2	133.9	0.3	133.3	134.3	△ 1.0	133.6	133.6	0.6	△ 0.3
	10歳	139.5	139.3	0.2	141.1	140.6	0.5	139.0	140.1	0.5	1.0
	11歳	145.5	146.0	△ 0.5	147.4	146.8	0.6	145.0	146.8	0.5	0.6
中学校	12歳	153.1	<u>154.1</u>	△ 1.0	152.1	152.3	△ 0.2	152.3	151.8	0.8	0.3
	13歳	159.7	159.5	0.2	154.2	155.0	△ 0.8	159.5	154.8	0.2	△ 0.6
	14歳	165.2	165.9	△ 0.7	156.1	156.3	△ 0.2	165.0	156.5	0.2	△ 0.4
高等学校	15歳	167.9	168.3	△ 0.4	156.4	156.8	△ 0.4	168.3	157.0	△ 0.4	△ 0.6
	16歳	170.2	170.1	0.1	157.0	158.1	△ 1.1	169.9	157.6	0.3	△ 0.6
	17歳	169.6	170.3	△ 0.7	157.2	158.3	△ 1.1	170.7	158.0	△ 1.1	△ 0.8

(注) 下線の部分は調査実施以来最高値を示す。

2 体重

男子の体重は、7歳から10歳及び13歳から16歳の各年齢で前年度より増えている。

女子は、10歳から12歳及び15歳から17歳の各年齢で前年度より増えており、17歳(55.3 kg)は過去最高となっている。

また、11歳では、女子が男子を上回っている。

全国との比較でみると、男子は17歳を除く各年齢で、女子はすべての年齢において全国平均を上回っている。(表2)

表2 年齢別 体重の平均値

(単位：kg)

区 分	本 県						全 国		本 県 と 全 国 と の 差		
	男			女			男	女	男	女	
	H25 (A)	H24 (B)	前年差 (A-B)	H25 (C)	H24 (D)	前年差 (C-D)	H25 (E)	H25 (F)	(A-E)	(C-F)	
幼稚園	5歳	19.4	19.5	△ 0.1	19.0	19.1	△ 0.1	18.9	18.6	0.5	0.4
小学校	6歳	22.0	22.3	△ 0.3	21.2	21.3	△ 0.1	21.3	20.9	0.7	0.3
	7歳	24.7	24.4	0.3	23.9	24.0	△ 0.1	23.9	23.5	0.8	0.4
	8歳	28.6	27.5	1.1	27.1	27.7	△ 0.6	27.1	26.4	1.5	0.7
	9歳	32.1	31.8	0.3	30.2	31.3	△ 1.1	30.4	30.0	1.7	0.2
	10歳	36.2	35.6	0.6	35.7	34.9	0.8	34.3	34.0	1.9	1.7
中学校	11歳	39.7	41.0	△ 1.3	40.1	39.9	0.2	38.3	39.0	1.4	1.1
	12歳	46.0	46.2	△ 0.2	45.3	44.6	0.7	43.9	43.7	2.1	1.6
	13歳	50.8	50.1	0.7	48.0	48.2	△ 0.2	48.8	47.1	2.0	0.9
高等学校	14歳	55.6	55.5	0.1	51.0	51.2	△ 0.2	54.0	49.9	1.6	1.1
	15歳	61.7	60.1	1.6	53.2	52.4	0.8	58.9	51.4	2.8	1.8
	16歳	62.5	61.9	0.6	54.3	53.2	1.1	61.0	52.5	1.5	1.8
	17歳	62.5	62.9	△ 0.4	<u>55.3</u>	54.9	0.4	62.8	52.9	△ 0.3	2.4

(注) 下線の部分は調査実施以来最高値を示す。

3 座高

男子の座高は、7歳から10歳の各年齢で前年度より伸びており、14歳(88.7cm)は、前年度に引き続き過去最高となっている。

女子は、10歳から12歳及び14歳の各年齢で前年度より伸びており、12歳(82.8cm)及び14歳(85.2cm)は過去最高となっている。

また、10歳から12歳では、女子が男子を上回っている。

全国との比較でみると、男子は6歳、8歳から14歳及び16歳の各年齢で、女子は6歳、8歳及び10歳から14歳の各年齢で、全国平均を上回っている。(表3)

表3 年齢別 座高の平均値

(単位：cm)

区 分	本 県						全 国		本 県 と 全 国 と の 差		
	男			女			男	女	男	女	
	H25 (A)	H24 (B)	前年差 (A-B)	H25 (C)	H24 (D)	前年差 (C-D)	H25 (E)	H25 (F)	(A-E)	(C-F)	
幼稚園	5歳	62.0	62.0	0.0	61.2	61.6	△ 0.4	62.0	61.5	0.0	△ 0.3
小学校	6歳	64.9	64.9	0.0	64.5	64.5	0.0	64.8	64.4	0.1	0.1
	7歳	67.5	67.4	0.1	67.3	67.4	△ 0.1	67.6	67.3	△ 0.1	0.0
	8歳	70.6	70.0	0.6	70.1	<u>70.4</u>	△ 0.3	70.2	69.9	0.4	0.2
	9歳	72.9	72.8	0.1	72.4	73.1	△ 0.7	72.6	72.8	0.3	△ 0.4
	10歳	75.4	75.3	0.1	76.3	76.1	0.2	75.0	75.8	0.4	0.5
中学校	11歳	77.9	78.2	△ 0.3	79.8	79.5	0.3	77.6	79.3	0.3	0.5
	12歳	82.1	<u>82.5</u>	△ 0.4	<u>82.8</u>	82.7	0.1	81.2	82.1	0.9	0.7
	13歳	85.3	85.5	△ 0.2	84.0	<u>84.2</u>	△ 0.2	84.8	83.8	0.5	0.2
高等学校	14歳	<u>88.7</u>	<u>88.7</u>	0.0	<u>85.2</u>	85.1	0.1	88.1	84.9	0.6	0.3
	15歳	90.3	<u>90.7</u>	△ 0.4	85.5	85.7	△ 0.2	90.3	85.5	0.0	0.0
	16歳	91.5	<u>91.8</u>	△ 0.3	85.7	86.0	△ 0.3	91.4	85.8	0.1	△ 0.1
	17歳	91.6	91.8	△ 0.2	85.7	<u>86.3</u>	△ 0.6	92.0	85.9	△ 0.4	△ 0.2

(注) 下線の部分は調査実施以来最高値を示す。

4 身長、体重及び座高の推移

(1) 身長の推移

ア 男子

(ア) 各年齢間の身長差は、11歳と12歳の間(7.6cm)が最も大きく、16歳と17歳の間(-0.6cm)では身長が逆転している。(表4)

(イ) 親の世代(30年前・昭和58年度調査)と比べると、最も差のある年齢は12歳で、親の世代より2.8cm高い。(表4)

(ウ) 平成7年度生まれ(今年度調査時17歳)と30年前の昭和40年度生まれ(親の世代)の発育量を比べると、年間発育量が最大となる時期は、それぞれの世代で11歳(平成7年度生まれが7.3cm、親の世代が7.2cm)を示している。

なお、現在の17歳は、5歳、8歳、11歳及び12歳の各歳時において、親の世代の発育量を上回っている。(表5)

イ 女子

(ア) 各年齢間の身長差は、9歳と10歳の間(7.8cm)が最も大きく、16歳と17歳の間(0.2cm)が最も小さい。(表4)

(イ) 親の世代(30年前・昭和58年度調査)と比べると、最も差のある年齢は11歳で、親の世代より3.5cm高い。(表4)

(ウ) 平成7年度生まれ(今年度調査時17歳)と30年前の昭和40年度生まれ(親の世代)の発育量を比べると、年間発育量が最大となる時期は、平成7年度生まれが9歳(7.0cm)、親の世代が10歳(6.9cm)を示している。

なお、現在の17歳は、5歳、7歳、9歳及び14歳の各歳時において親の世代の発育量を上回っている。(表5)

表4 身長の年齢別平均値

(単位：cm)

区 分			H 2 5 (A)	年齢間の 身長差	H 2 4 (B)	前年差 (A - B)	S 5 8 親の世代(C)	差 (A - C)
男 子	幼稚園	5歳	110.7		110.9	△ 0.2	110.7	0.0
		6歳	116.9	6.2	116.8	0.1	115.6	1.3
	小学校	7歳	122.4	5.5	121.8	0.6	121.6	0.8
		8歳	128.7	6.3	127.6	1.1	126.7	2.0
		9歳	134.2	5.5	133.9	0.3	132.1	2.1
		10歳	139.5	5.3	139.3	0.2	137.5	2.0
		11歳	145.5	6.0	146.0	△ 0.5	142.9	2.6
	中学校	12歳	153.1	<u>7.6</u>	154.1	△ 1.0	150.3	2.8
		13歳	159.7	6.6	159.5	0.2	157.4	2.3
		14歳	165.2	5.5	165.9	△ 0.7	163.9	1.3
	高等学校	15歳	167.9	2.7	168.3	△ 0.4	167.4	0.5
		16歳	170.2	2.3	170.1	0.1	168.9	1.3
		17歳	169.6	△ 0.6	170.3	△ 0.7	169.9	△ 0.3
	女 子	幼稚園	5歳	109.8		110.1	△ 0.3	109.7
6歳			115.7	5.9	115.6	0.1	115.2	0.5
小学校		7歳	121.6	5.9	121.7	△ 0.1	120.8	0.8
		8歳	127.7	6.1	128.0	△ 0.3	126.8	0.9
		9歳	133.3	5.6	134.3	△ 1.0	132.6	0.7
		10歳	141.1	<u>7.8</u>	140.6	0.5	138.4	2.7
		11歳	147.4	6.3	146.8	0.6	143.9	3.5
中学校		12歳	152.1	4.7	152.3	△ 0.2	150.8	1.3
		13歳	154.2	2.1	155.0	△ 0.8	154.5	△ 0.3
		14歳	156.1	1.9	156.3	△ 0.2	156.0	0.1
高等学校		15歳	156.4	0.3	156.8	△ 0.4	157.0	△ 0.6
		16歳	157.0	0.6	158.1	△ 1.1	157.7	△ 0.7
		17歳	157.2	0.2	158.3	△ 1.1	157.4	△ 0.2

(注) 下線の部分は年齢差が最も大きい値を示す。

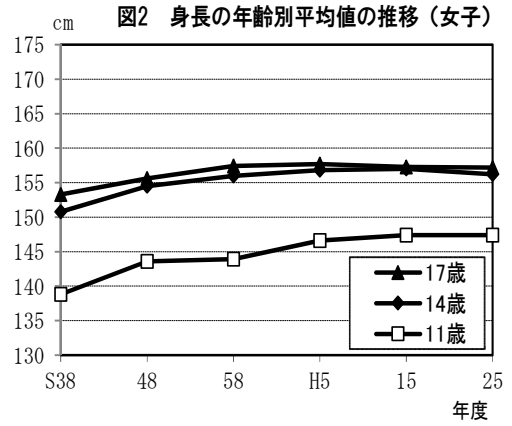
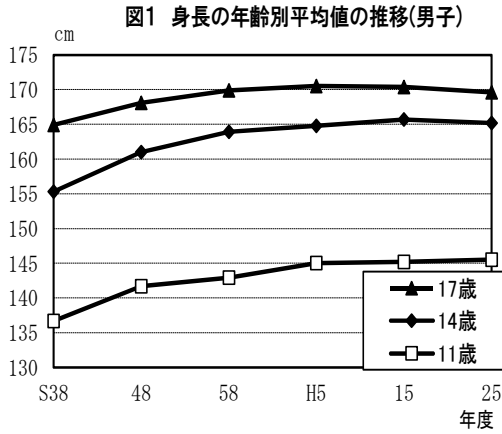
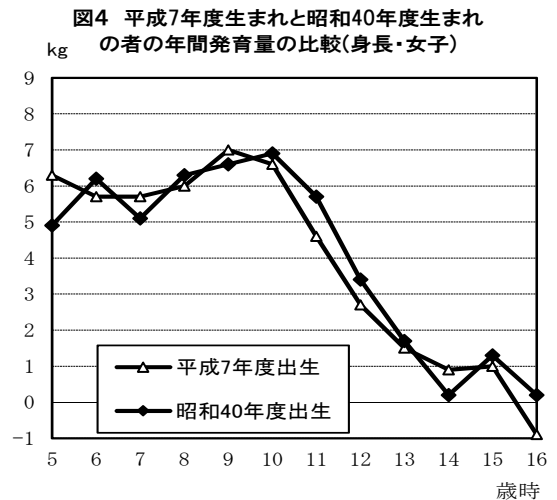
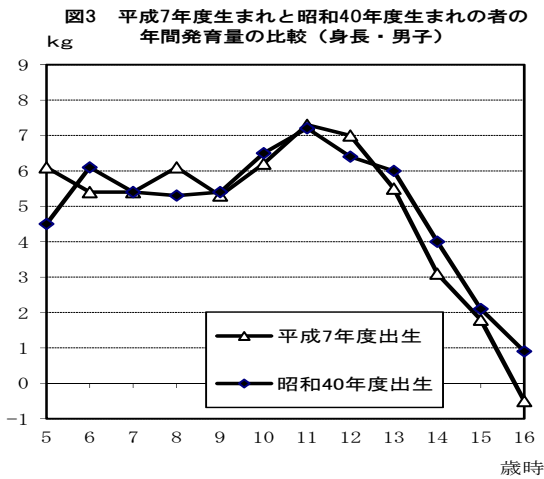


表5 平成7年度生まれと昭和40年度生まれの者の年間発育量の比較(身長) (単位: cm)

区分	男子		女子	
	平成7年度生まれ (平成25年度17歳)	昭和40年度生まれ (昭和58年度17歳)	平成7年度生まれ (平成25年度17歳)	昭和40年度生まれ (昭和58年度17歳)
総発育量	58.7	59.8	47.1	48.5
幼稚園 5歳時	6.1	4.5	6.3	4.9
小学校	6歳時	5.4	6.1	5.7
	7歳時	5.4	5.4	5.7
	8歳時	6.1	5.3	6.0
	9歳時	5.3	5.4	7.0
	10歳時	6.2	6.5	6.6
中学校	11歳時	7.3	7.2	5.7
	12歳時	7.0	6.4	2.7
	13歳時	5.5	6.0	1.5
高等学校	14歳時	3.1	4.0	0.9
	15歳時	1.8	2.1	1.0
	16歳時	△ 0.5	0.9	△ 0.9

(注) 1 年間発育量とは、例えば、平成7年度生まれの「5歳時」の年間発育量は、平成14年度調査6歳の数値から平成13年度調査5歳の数値を減じたものである。
 2 下線の部分は、最大の年間発育量を示す。
 3 平成7年度生まれの15歳の数値は全国値によるもの(平成23年度調査が東日本大震災により岩手県、宮城県、福島県は実施しなかったため。)



(2) 体重の推移

ア 男子

(ア) 各年齢間の体重差は、11歳と12歳の間(6.3kg)が最も大きく、16歳と17歳の間(0.0kg)では最も小さく差がない。(表6)

(イ) 親の世代(30年前・昭和58年度調査)と比べると、最も差のある年齢は15歳で、親の世代より4.1kg重い。(表6)

(ウ) 平成7年度生まれ(今年度調査時17歳)と30年前の昭和40年度生まれ(親の世代)の発育量と比べると、年間発育量が最大となる時期は、それぞれの世代で11歳(平成7年度生まれが5.8kg、親の世代が5.9kg)を示している。

なお、現在の17歳は、5歳、7歳から10歳の各歳時において親の世代の発育量を上回っている。(表7)

イ 女子

(ア) 各年齢間の体重差は、9歳と10歳の間(5.5kg)が最も大きく、16歳と17歳の間(1.0kg)が最も小さい。(表6)

(イ) 親の世代(30年前・昭和58年度調査)と比べると、最も差のある年齢は11歳で、親の世代より3.3kg重い。(表6)

(ウ) 平成7年度生まれ(今年度調査時17歳)と30年前の昭和40年度生まれ(親の世代)の発育量を比べると、年間発育量が最大となる時期は、平成7年度生まれが10歳(5.1kg)、親の世代が11歳(5.6kg)を示している。

なお、現在の17歳は、5歳、7歳、9歳、13歳及び16歳の各歳時において親の世代の発育量を上回っている。(表7)

表6 体重の年齢別平均値 (単位: kg)

区 分		H25 (A)	年齢間の 体重差	H24 (B)	前年差 (A-B)	S58 親の世代(C)	差 (A-C)	
男 子	幼稚園	5歳		19.5	△ 0.1	19.0	0.4	
	小学校	6歳	22.0	2.6	22.3	△ 0.3	20.9	1.1
		7歳	24.7	2.7	24.4	0.3	23.4	1.3
		8歳	28.6	3.9	27.5	1.1	26.2	2.4
		9歳	32.1	3.5	31.8	0.3	29.2	2.9
		10歳	36.2	4.1	35.6	0.6	33.0	3.2
	中学校	11歳	39.7	3.5	41.0	△ 1.3	37.1	2.6
		12歳	46.0	<u>6.3</u>	46.2	△ 0.2	42.4	3.6
		13歳	50.8	4.8	50.1	0.7	47.8	3.0
	高等学校	14歳	55.6	4.8	55.5	0.1	53.3	2.3
		15歳	61.7	6.1	60.1	1.6	57.6	4.1
		16歳	62.5	0.8	61.9	0.6	60.2	2.3
		17歳	62.5	0.0	62.9	△ 0.4	61.7	0.8
	女 子	幼稚園	5歳		19.1	△ 0.1	18.7	0.3
小学校		6歳	21.2	2.2	21.3	△ 0.1	20.7	0.5
		7歳	23.9	2.7	24.0	△ 0.1	22.9	1.0
		8歳	27.1	3.2	27.7	△ 0.6	26.2	0.9
		9歳	30.2	3.1	31.3	△ 1.1	29.8	0.4
		10歳	35.7	<u>5.5</u>	34.9	0.8	33.2	2.5
中学校		11歳	40.1	4.4	39.9	0.2	36.8	3.3
		12歳	45.3	5.2	44.6	0.7	43.2	2.1
		13歳	48.0	2.7	48.2	△ 0.2	47.7	0.3
高等学校		14歳	51.0	3.0	51.2	△ 0.2	50.8	0.2
		15歳	53.2	2.2	52.4	0.8	52.7	0.5
		16歳	54.3	1.1	53.2	1.1	53.8	0.5
		17歳	55.3	1.0	54.9	0.4	53.5	1.8

(注) 下線の部分は年齢差が最も大きい値を示す。

図5 体重の年齢別平均値の推移(男子)

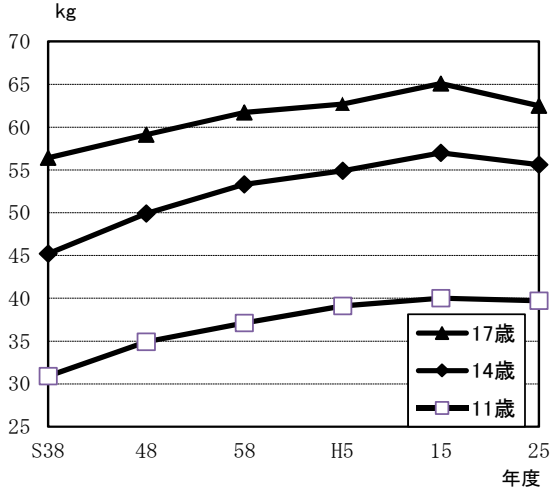


図6 体重の年齢別平均値の推移(女子)

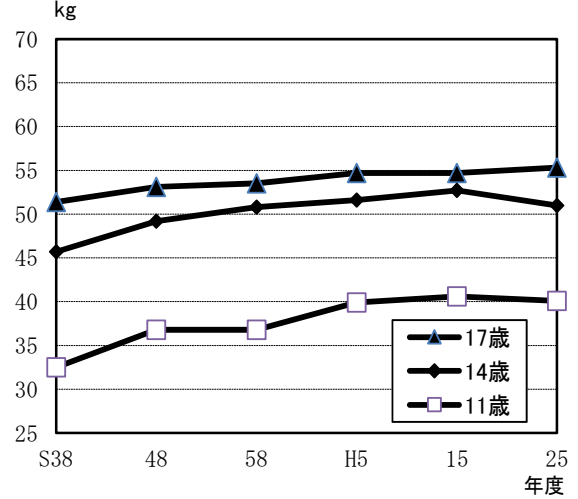


表7 平成7年度生まれと昭和40年度生まれの者の年間発育量の比較(体重) (単位: kg)

区分	男子		女子	
	平成7年度生まれ (平成25年度17歳)	平成40年度生まれ (平成58年度17歳)	平成7年度生まれ (平成25年度17歳)	平成40年度生まれ (平成58年度17歳)
総発育量	42.9	43.0	36.0	35.3
幼稚園 5歳時	2.7	1.3	2.5	1.4
小学校	6歳時	2.3	2.9	2.7
	7歳時	3.4	2.6	3.0
	8歳時	3.9	3.2	3.3
	9歳時	4.0	3.6	4.8
	10歳時	4.2	3.7	<u>5.1</u>
中学校	11歳時	<u>5.8</u>	<u>5.9</u>	4.8
	12歳時	3.5	4.7	2.7
	13歳時	5.7	5.8	3.0
高等学校	14歳時	4.3	4.8	0.2
	15歳時	2.5	2.9	1.8
	16歳時	0.6	1.6	2.1

- (注) 1 年間発育量とは、例えば、平成7年度生まれの「5歳時」の年間発育量は、平成14年度調査6歳の数値から平成13年度調査5歳の数値を減じたものである。
 2 下線の部分は、最大の年間発育量を示す。
 3 平成7年度生まれの15歳の数値は全国値によった(平成23年度調査が東日本大震災により岩手県、宮城県、福島県は実施しなかったため。)

図7 平成7年度生まれと昭和40年度生まれの者の年間発育量の比較(体重・男子)

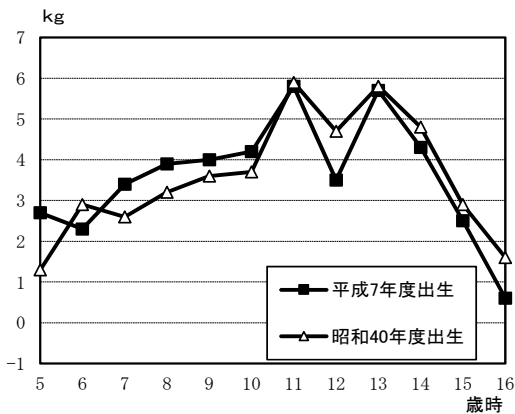
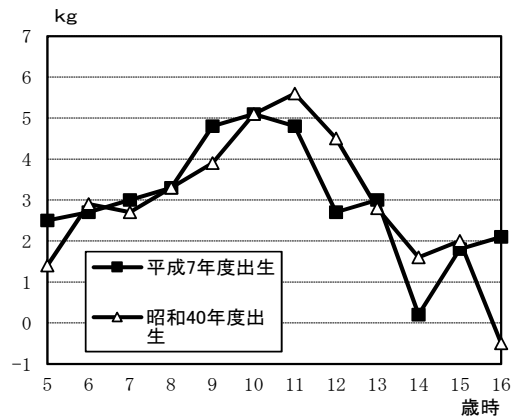


図8 平成7年度生まれと昭和40年度生まれの者の年間発育量の比較(体重・女子)



(3) 座高の推移

ア 男子

(ア) 各年齢間の座高差は、11歳と12歳の間(4.2 cm)が最も大きく、16歳と17歳の間(0.1 cm)が最も小さい。(表8)

(イ) 男子の座高を親の世代(30年前・昭和58年度調査)と比べると、最も差のある年齢は12歳で、親の世代よりも1.9 cm高い。(表8)

イ 女子

(ア) 各年齢間の座高差は、9歳と10歳の間(3.9 cm)が最も大きく、16歳と17歳の間(0.0 cm)が最も小さく差がない。(表8)

(イ) 女子の座高を親の世代(30年前・昭和58年度調査)と比べると、最も差のある年齢は11歳で、親の世代よりも2.2 cm高い。(表8)

表8 座高の年齢別平均値

(単位：cm)

区分			H25 (A)	年齢間 の座高差	H24 (B)	前年差 (A-B)	S58 親の世代(C)	差 (A-C)
男子	幼稚園	5歳	62.0		62.0	0.0	62.4	△ 0.4
		6歳	64.9	2.9	64.9	0.0	64.9	0.0
	小学校	7歳	67.5	2.6	67.4	0.1	67.5	0.0
		8歳	70.6	3.1	70.0	0.6	69.8	0.8
		9歳	72.9	2.3	72.8	0.1	72.3	0.6
		10歳	75.4	2.5	75.3	0.1	74.4	1.0
		11歳	77.9	2.5	78.2	△ 0.3	76.7	1.2
	中学校	12歳	82.1	<u>4.2</u>	82.5	△ 0.4	80.2	1.9
		13歳	85.3	3.2	85.5	△ 0.2	83.5	1.8
		14歳	88.7	3.4	88.7	0.0	87.0	1.7
	高等学校	15歳	90.3	1.6	90.7	△ 0.4	89.5	0.8
		16歳	91.5	1.2	91.8	△ 0.3	90.2	1.3
		17歳	91.6	0.1	91.8	△ 0.2	90.8	0.8
	女子	幼稚園	5歳	61.2		61.6	△ 0.4	62.0
6歳			64.5	3.3	64.5	0.0	64.5	0.0
小学校		7歳	67.3	2.8	67.4	△ 0.1	67.0	0.3
		8歳	70.1	2.8	70.4	△ 0.3	69.7	0.4
		9歳	72.4	2.3	73.1	△ 0.7	72.5	△ 0.1
		10歳	76.3	<u>3.9</u>	76.1	0.2	74.8	1.5
		11歳	79.8	3.5	79.5	0.3	77.6	2.2
中学校		12歳	82.8	3.0	82.7	0.1	81.3	1.5
		13歳	84.0	1.2	84.2	△ 0.2	83.4	0.6
		14歳	85.2	1.2	85.1	0.1	84.3	0.9
高等学校		15歳	85.5	0.3	85.7	△ 0.2	85.1	0.4
		16歳	85.7	0.2	86.0	△ 0.3	85.2	0.5
		17歳	85.7	0.0	86.3	△ 0.6	85.0	0.7

(注) 下線の部分は年齢差が最も大きい値を示す。

第2 健康状態

1 疾病・異常の被患率等別状況

疾病・異常の被患率等を階層別にみると、表9のとおりである。

幼稚園及び小学校で被患率等が最も高いのは、むし歯で、幼稚園 51.6%、小学校 67.0%となっている。

中学校及び高等学校で被患率等が最も高いのは、裸眼視力1.0未満の者で、中学校 59.2%、高等学校 68.6%となっている。(表9)

表9 疾病・異常の被患率等

(単位：%)

区分	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	
90%以上					
80%以上～90%未満					
70～80					
60～70		むし歯 67.0		裸眼視力1.0未満の者 68.6 むし歯 65.7	
40～60	むし歯 51.6		裸眼視力1.0未満の者 59.2 むし歯 56.8		
20～40		裸眼視力1.0未満の者 36.1			
10～20		鼻・副鼻腔疾患 15.9			
1～10	8～10	歯・口腔のその他の疾患・異常 8.8	鼻・副鼻腔疾患 8.1		
	6～8	耳疾患 7.0	耳疾患 7.7	歯垢の状態 7.8	
				歯肉の状態 6.9	
	4～6		歯列・咬合 4.3	歯・口腔のその他の疾患・異常 5.7	
			ぜん息 4.0	歯垢の状態 5.1 歯肉の状態 4.7	
	2～4	鼻・副鼻腔疾患 3.6	眼の疾患・異常 3.6	歯列・咬合 3.8	心電図異常 3.5
		アトピー性皮膚炎 2.1	栄養状態 3.2	心電図異常 3.5	
			アトピー性皮膚炎 3.1	眼の疾患・異常 2.6	
			その他の疾患・異常 2.8	耳疾患 2.3	
			歯垢の状態 2.8	アトピー性皮膚炎 2.2	
1～2	歯列・咬合 1.9	歯肉の状態 1.9	口腔咽喉頭疾患・異常 1.8	顎関節 1.7	
	ぜん息 1.8		ぜん息 1.8	その他の疾患・異常 1.6	
	歯・口腔のその他の疾患・異常 1.7		蛋白検出の者 1.2	歯・口腔のその他の疾患・異常 1.1	
0.1～1	0.5～1		難聴 0.7	栄養状態 0.6	
	0.1～0.5	眼の疾患・異常 0.5	その他の皮膚疾患 0.4	せき柱・胸部 0.4	せき柱・胸部 0.4
		寄生虫卵保持者 0.4	心臓の疾患・異常 0.3	尿糖検出の者 0.3	栄養状態 0.3
		口腔咽喉頭疾患・異常 0.4	言語障害 0.3	心臓の疾患・異常 0.3	難聴 0.3
		蛋白検出の者 0.4	蛋白検出の者 0.2	難聴 0.2	鼻・副鼻腔疾患 0.2
		栄養状態 0.3	せき柱・胸部 0.2	顎関節 0.2	心臓の疾患・異常 0.2
		その他の疾患・異常 0.3	結核精密検査の対象者 0.1	その他の皮膚疾患 0.1	尿糖検出の者 0.2
		顎関節 0.2	腎臓疾患 0.1	言語障害 0.1	耳疾患 0.2
		言語障害 0.2		腎臓疾患 0.1	その他の皮膚疾患 0.2
		せき柱・胸部 0.2			眼の疾患・異常 0.1
歯肉の状態 0.1				腎臓疾患 0.1	
その他の皮膚疾患 0.1					
0.1%未満	歯垢の状態 0.0	尿糖検出の者 0.0	結核精密検査の対象者 0.0	口腔咽喉頭疾患・異常 0.0	
		顎関節 0.0		結核 0.0	
		寄生虫卵保有者 0.0			

(注) 1 「眼の疾患・異常」とは、トラコーマ、流行性角結膜炎、麦粒腫(ものもらい)、眼炎、斜視、片目失明等である。

2 「耳疾患」とは、中耳炎、内耳炎、外耳炎、メニエール病、耳かいの欠損、耳垢栓塞等である。

3 「鼻・副鼻腔疾患」とは、慢性副鼻腔炎(蓄のう症)、慢性的症状の鼻炎、鼻ポリープ、アレルギー性鼻炎(花粉症等)等である。

4 「歯・口腔のその他の疾患・異常の者」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常等である。

5 「心電図異常」とは、心電図検査の結果、異常と判定された者である。

6 「その他の疾患・異常」とは、本調査のいずれの調査項目にも該当しない疾病・異常(例えば、てんかん、貧血、川崎病等)である。

7 「結核対策委員会の要検討者」とは、結核に関する検診により結核対策委員会で精密検査の要否等の検討を要した者である。

8 「結核精密検査の対象者」とは、上記7の検討の結果、結核の精密検査を必要とされた者である。

2 主な疾病・異常の推移

主な疾病・異常の近年の推移は、表10のとおりである。

(1) 裸眼視力1.0未満の者

小学校においては前年度より1.3ポイント、中学校においては前年度より2.6ポイントそれぞれ増加した。

また、小学校、中学校及び高等学校で全国の割合を上回った。

(2) 耳疾患、鼻・副鼻腔疾患、口腔咽喉頭疾患・異常

小学校においては前年度より、耳疾患で3.2ポイント、鼻・副鼻腔疾患で6.5ポイント、口腔咽喉頭疾患・異常で0.4ポイントそれぞれ増加した。

また、耳疾患及び鼻・副鼻腔疾患は、幼稚園及び小学校で全国の割合を上回った。

(3) むし歯

中学校においては前年度より2.1ポイント、高等学校においては前年度より2.8ポイントそれぞれ増加した。

また、幼稚園から高等学校まで全国の割合を上回ったものの、幼稚園及び小学校においては、減少が続いている。

(4) ぜん息

幼稚園で前年度より増加しているが、幼稚園から高等学校まで全国の割合を下回っている。

表10 主な疾病・異常の推移

(単位：%)

区分		裸眼視力 1.0未満の 者	耳 疾 患	鼻・ 副 鼻 腔 疾 患	口 腔 咽 喉 頭 疾 患 ・ 異 常	む し 歯	心 電 図 異 常	蛋 白 検 出 の 者	寄 生 虫 卵 保 有 者	ぜん 息
幼 稚 園	H15	31.9	1.8	2.2	5.5	70.9	…	0.1	-	1.5
	19	X	1.4	1.3	0.9	66.7	…	0.5	-	3.5
	20	X	2.9	1.7	1.7	62.4	…	0.3	-	1.1
	21	X	1.3	0.1	0.6	58.1	…	0.1	-	1.2
	22	X	4.3	1.9	0.8	57.4	…	0.1	-	1.1
	24	X	3.9	1.3	2.7	52.6	…	0.5	-	1.2
	25	X	7.0	3.6	0.4	51.6	…	0.4	0.4	1.8
	全国H25	24.5	2.6	3.4	1.4	39.5	…	0.9	0.1	2.1
小 学 校	H15	28.8	3.1	4.6	3.4	77.6	2.5	0.4	0.0	2.9
	19	30.9	2.9	6.3	2.1	73.8	2.6	0.3	-	3.6
	20	31.9	4.7	8.4	3.5	73.4	2.2	0.3	0.0	3.2
	21	32.3	6.3	12.0	2.6	70.7	2.0	0.5	0.0	3.3
	22	31.2	6.9	12.8	3.1	68.1	2.9	0.5	0.0	2.7
	24	34.8	4.5	9.4	1.7	67.5	2.1	0.4	-	6.0
	25	36.1	7.7	15.9	2.1	67.0	2.6	0.2	0.0	4.0
	全国H25	30.5	5.4	12.1	1.3	54.1	2.6	0.7	0.2	4.2
中 学 校	H15	48.1	2.1	6.6	1.5	74.4	3.3	1.0	…	1.4
	19	55.2	3.3	11.2	0.9	70.2	2.6	1.4	…	1.6
	20	55.8	1.9	4.2	3.0	64.1	3.5	1.1	…	2.1
	21	54.7	1.8	5.3	0.6	61.0	2.6	1.6	…	1.9
	22	59.6	4.8	9.8	0.3	61.3	2.8	1.3	…	3.1
	24	56.6	4.9	9.5	0.9	54.7	3.3	1.4	…	2.4
	25	59.2	2.3	8.1	1.8	56.8	3.5	1.2	…	1.8
	全国H25	52.8	3.9	11.1	0.7	44.6	3.4	2.5	…	3.2
高 等 学 校	H15	59.6	0.1	1.9	0.9	80.6	4.1	1.1	…	0.9
	19	51.1	0.2	3.1	0.3	76.8	3.8	1.3	…	0.5
	20	60.8	0.5	2.6	0.5	73.0	3.1	1.2	…	1.0
	21	70.7	0.5	4.5	0.5	72.5	3.2	1.3	…	1.0
	22	X	0.1	0.0	0.9	67.6	3.9	1.6	…	0.7
	24	X	0.1	1.9	0.4	62.9	3.1	1.2	…	1.3
	25	68.6	0.2	0.2	0.0	65.7	3.5	0.9	…	0.6
	全国H25	65.8	2.2	8.7	0.5	55.1	3.2	2.7	…	1.9

(注) 1 小数点以下第2位を四捨五入している。

2 心電図異常については、6歳、12歳、15歳のみ実施している。

3 寄生虫卵保有者については、5歳から8歳のみ実施している。

3 裸眼視力 1.0 未満の者の推移

(1) 裸眼視力 1.0 未満の者の割合は、表 11 のとおりである。

前年度と比べると、小学校で 1.3 ポイント、中学校で 2.6 ポイント増加している。

10 年前(平成 15 年度)と比べると、小学校で 7.3 ポイント、中学校で 11.1 ポイント増加している。

また、裸眼視力 1.0 未満の者は、幼稚園を除き全国の割合を上回っている。

(2) 視力非矯正者(眼鏡やコンタクトレンズを使用していない者)と視力矯正者とに分けて調査したところ、視力非矯正者のうち、「裸眼視力 0.7 未満の者」(学校生活上問題となることが多い視力の状態の者)の割合は、小学校で 13.5%、中学校で 18.9%となっている。(表 12)

表 11 裸眼視力 1.0 未満の者の推移

(単位：%)

区 分		H15	H19	H20	H21	H22	H24 (A)	H25 (B)	前年差 (B-A)	全国H25 (C)	差 (B-C)
幼稚園	計	31.9	X	X	X	X	X	X	-	24.5	-
	1.0未満 0.7以上	20.1	X	X	X	X	X	X	-	18.1	-
	0.7未満 0.3以上	11.5	X	X	X	X	X	X	-	5.8	-
	0.3未満	0.2	X	X	X	X	X	X	-	0.7	-
小学校	計	28.8	30.9	31.9	32.3	31.2	34.8	36.1	1.3	30.5	5.6
	1.0未満 0.7以上	13.2	13.4	12.6	12.6	11.3	12.8	14.0	1.2	10.7	3.3
	0.7未満 0.3以上	10.4	10.7	12.1	11.8	12.3	12.6	12.9	0.3	11.4	1.5
	0.3未満	5.3	6.8	7.1	7.8	7.6	9.4	9.2	△ 0.2	8.4	0.8
中学校	計	48.1	55.2	55.8	54.7	59.6	56.6	59.2	2.6	52.8	6.4
	1.0未満 0.7以上	11.4	14.7	11.7	11.6	12.9	10.1	10.7	0.6	11.1	△ 0.4
	0.7未満 0.3以上	17.5	19.0	19.5	15.2	18.8	16.5	18.1	1.6	16.6	1.5
	0.3未満	19.2	21.4	24.6	27.9	27.9	30.0	30.4	0.4	25.2	5.2
高等学校	計	59.6	51.1	60.8	70.7	X	X	68.6	-	65.8	2.8
	1.0未満 0.7以上	12.1	11.3	X	8.7	X	X	X	-	13.2	-
	0.7未満 0.3以上	15.5	17.8	X	15.5	X	X	X	-	19.2	-
	0.3未満	32.0	22.0	X	46.5	X	X	X	-	33.4	-

(注) 1 小数点以下第2位四捨五入により、計と内訳が一致しない場合がある。

(注) 2 低い方の視力の記載により計上している。

図9 裸眼視力1.0未満の推移グラフ

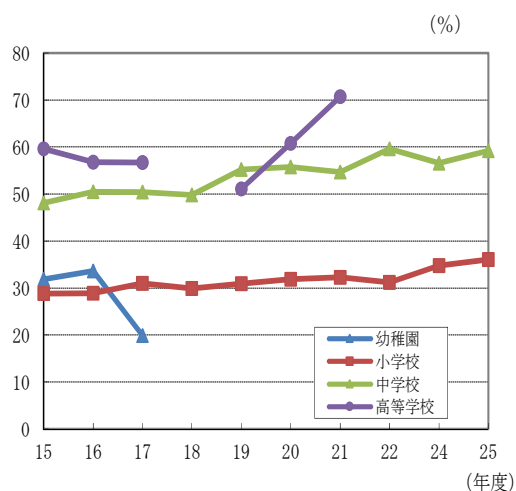


図10 学校種別裸眼視力1.0未満の者の割合

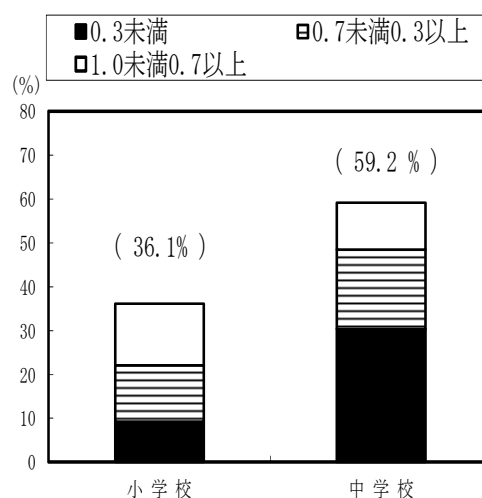


表 1 2 学校種別 視力非矯正者と視力矯正者の割合

区分		視力非矯正者					視力矯正者				
		1.0以上	1.0未満 0.7以上	0.7未満 0.3以上	0.3未満		1.0以上	1.0未満 0.7以上	0.7未満 0.3以上	0.3未満	
幼稚園	H 2 5	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
	全 国	98.9	75.3	17.8	5.3	0.5	1.1	0.2	0.3	0.4	0.2
小学校	H 2 5	89.8	63.3	13.0	10.2	3.3	10.1	0.5	1.0	2.7	5.9
	全 国	90.9	68.9	9.9	8.9	3.2	9.1	0.6	0.8	2.5	5.2
中学校	H 2 5	69.4	40.5	10.0	13.0	5.9	30.6	0.3	0.7	5.1	24.5
	全 国	73.2	46.5	9.8	11.3	5.6	26.9	0.7	1.3	5.3	19.6
高等学校	H 2 5	31.1	31.1	X	X	X	0.4	0.4	X	X	X
	全 国	62.2	32.7	10.3	12.2	7.0	37.8	1.5	2.9	7.0	26.4

(注) 1 小数点以下第2位四捨五入により、計と内訳が一致しない場合がある。

(注) 2 低い方の視力の記載により計上している。

4 鼻・副鼻腔疾患の推移

鼻・副鼻腔疾患(蓄のう症、アレルギー性鼻炎(花粉症等)等)の者の割合は、幼稚園で3.6%、小学校で15.9%、中学校で8.1%、高等学校では0.2%となっており、中学校及び高等学校で前年度より減少している。

また、鼻・副鼻腔疾患の者は、中学校及び高等学校で全国の割合を下回っている。(表13)

表13 鼻・副鼻腔疾患率の推移

(単位：%)

区 分	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
平成15年度	2.2	4.6	6.6	1.9
平成19年度	1.3	6.3	11.2	3.1
平成20年度	1.7	8.4	4.2	2.6
平成21年度	0.1	12.0	5.3	4.5
平成22年度	1.9	12.8	9.8	0.0
平成24年度(A)	1.3	9.4	9.5	1.9
平成25年度(B)	3.6	15.9	8.1	0.2
増減(B-A)	2.3	6.5	△1.4	△1.7
平成25年度全国平均(C)	3.4	12.1	11.1	8.7
比較(B-C)	0.2	3.8	△3.0	△8.5

(注) 差の欄については、小数点以下第2位四捨五入により、掲載上の計算値と一致しない箇所がある。

5 むし歯の推移

むし歯について「処置完了者」と「未処置歯のある者」に区分してみると表14のとおりである。

むし歯の被患率(治療済みの者を含む。)は、幼稚園で51.6%、小学校で67.0%、中学校で56.8%、高等学校では65.7%となっている。

むし歯の被患率は、30年前(昭和58年度)にはすべてにおいて9割を超え、20年前(平成5年度)も30年前と同程度の水準であったが、近年は低下傾向にあるものの、中学校及び高等学校においては、前年度を上回っている。

また、幼稚園から高等学校において全国の割合を上回っている。

表14 むし歯被患率の推移

区 分		S58	H5	H15	H19	H20	H21	H22	H24 (A)	H25 (B)	差 (B-A)	全国H25 (C)	差 (B-C)
幼稚園	計	92.7	80.4	70.9	66.7	62.4	58.1	57.4	52.6	51.6	△ 1.0	39.5	12.1
	処置完了者	15.1	30.1	21.3	24.2	25.7	22.2	21.0	14.9	20.6	5.7	16.0	4.6
	未処置歯のある者	77.6	50.3	49.6	42.5	36.7	35.9	36.4	37.7	31.1	△ 6.6	23.5	7.6
小学校	計	94.2	91.7	77.6	73.8	73.4	70.7	68.1	67.5	67.0	△ 0.5	54.1	12.9
	処置完了者	24.7	38.9	33.8	32.9	34.1	31.4	32.5	32.6	32.4	△ 0.2	27.2	5.2
	未処置歯のある者	69.6	52.8	43.8	40.9	39.3	39.2	35.6	35.0	34.6	△ 0.4	27.0	7.6
中学校	計	92.5	91.1	74.4	70.2	64.1	61.0	61.3	54.7	56.8	2.1	44.6	12.2
	処置完了者	34.6	43.8	37.3	34.3	35.3	29.2	31.1	26.4	30.5	4.1	24.9	5.6
	未処置歯のある者	57.9	47.3	37.1	35.9	28.8	31.9	30.2	28.3	26.2	△ 2.1	19.7	6.5
高等学校	計	95.0	93.7	80.6	76.8	73.0	72.5	67.6	62.9	65.7	2.8	55.1	10.6
	処置完了者	31.8	40.8	46.9	39.8	42.3	32.8	37.5	34.8	31.5	△ 3.3	31.5	0.0
	未処置歯のある者	63.2	53.0	33.7	37.0	30.6	39.7	30.1	28.0	34.2	6.2	23.7	10.5

(注) 差の欄については、小数点以下第2位四捨五入により、掲載上の計算値と一致しない箇所がある。

図11 むし歯被患率の推移グラフ

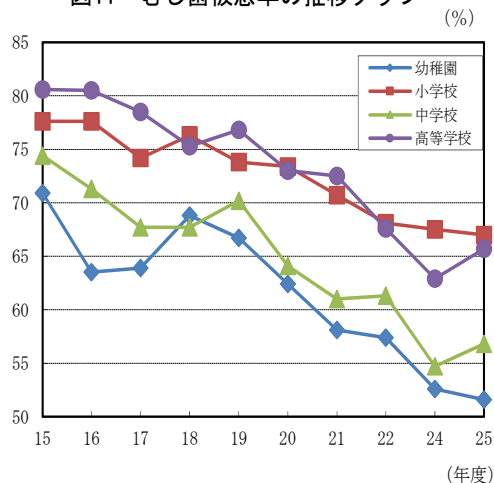
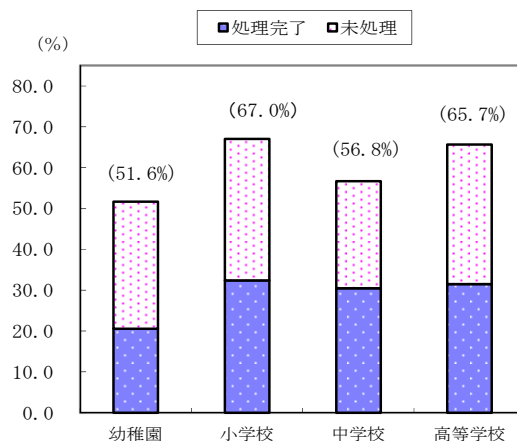


図12 むし歯の処理状況



6 12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯数等の推移

12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯数等(喪失歯及びむし歯数)は、表15のとおりである。

喪失歯数は変化がないが、むし歯数は1.5本で、昭和59年に調査を開始して以来、減少傾向にあり10年前(平成15年)と比べると1.2本減少している。

また、12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯数等は、全国の割合を上回っている。

(表15)

表15 12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯数等の推移

区 分		H15	H19	H20	H21	H22	H24 (A)	H25 (B)	前年差 (B-A)	全国H25 (C)	差 (B-C)
合 計		2.7	2.2	1.8	1.8	1.7	1.5	1.5	0.0	1.0	0.5
喪失歯数		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
むし歯	小 計	2.7	2.2	1.8	1.8	1.7	1.5	1.5	0.0	1.0	0.5
	処置歯数	1.7	1.3	1.1	1.1	1.0	0.8	0.9	0.1	0.6	0.3
	未処置歯数	1.0	0.9	0.7	0.7	0.6	0.7	0.5	△ 0.2	0.4	0.1

(単位:本)

7 心電図異常の推移(6歳、12歳及び15歳のみ)

心電図異常の者の割合は、小学校で2.6%、中学校及び高等学校がそれぞれ3.5%となっており、すべての学校で前年度より増加している。

また、心電図異常の者は、小学校を除き全国の割合を上回っている。(表16)

表16 心電図異常率の推移

(単位：%)

区 分	6歳 (小学校1年)	12歳 (中学校1年)	15歳 (高等学校1年)
平成15年度	2.5	3.3	4.1
平成19年度	2.6	2.6	3.8
平成20年度	2.2	3.5	3.1
平成21年度	2.0	2.6	3.2
平成22年度	2.9	2.8	3.9
平成24年度 (A)	2.1	3.3	3.1
平成25年度 (B)	2.6	3.5	3.5
増減 (B-A)	0.5	0.2	0.4
平成25年度全国平均(C)	2.6	3.4	3.2
比較 (B-C)	0.0	0.1	0.3

8 ぜん息の推移

ぜん息の者の割合は、幼稚園1.8%、小学校4.0%、中学校1.8%、高等学校0.6%となっており、幼稚園を除き前年度より減少している。

また、ぜん息の者は、幼稚園から高等学校まで全国の割合を下回っている。(表17)

表17 ぜん息被患率の推移

(単位：%)

区 分	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
平成15年度	1.5	2.9	1.4	0.9
平成19年度	3.5	3.6	1.6	0.5
平成20年度	1.1	3.2	2.1	1.0
平成21年度	1.2	3.3	1.9	1.0
平成22年度	1.1	2.7	3.1	0.7
平成24年度 (A)	1.2	6.0	2.4	1.3
平成25年度 (B)	1.8	4.0	1.8	0.6
増減 (B-A)	0.6	△ 2.0	△ 0.6	△ 0.7
平成25年度全国平均(C)	2.1	4.2	3.2	1.9
比較 (B-C)	△ 0.3	△ 0.2	△ 1.4	△ 1.3

第3 肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率

発育状態調査結果から算出した肥満度に基づく、肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率を年齢別にみると、表18、表19及び図13から図16のとおりである。

1 肥満傾向児

男子の肥満傾向児の出現率は、5歳、8歳から10歳及び12歳から16歳の各年齢で前年度より増加しており、10歳が21.27%で最も高くなっている。

女子は、10歳から13歳及び15歳から17歳の各年齢で前年度より増加しており、17歳が15.16%で最も高くなっている。

全国との比較でみると、男子・女子共にすべての年齢で全国の割合を上回っている。
(表18、図13、図14)

表18 年齢別 肥満傾向児の出現率

(単位：%)

区分	本県						全国		本県と全国との差		
	男			女			男	女	男	女	
	H25 (A)	H24 (B)	前年差 (A-B)	H25 (C)	H24 (D)	前年差 (C-D)	H25 (E)	H25 (F)	(A-E)	(C-F)	
幼稚園	5歳	4.93	4.60	0.33	4.38	5.10	△ 0.72	2.38	2.49	2.55	1.89
	6歳	8.12	11.42	△ 3.30	7.12	7.91	△ 0.79	4.18	3.91	3.94	3.21
小学校	7歳	9.73	10.73	△ 1.00	7.85	9.00	△ 1.15	5.47	5.38	4.26	2.47
	8歳	13.90	12.37	1.53	9.41	14.61	△ 5.20	7.26	6.31	6.64	3.10
	9歳	16.13	15.72	0.41	9.27	12.14	△ 2.87	8.90	7.58	7.23	1.69
	10歳	21.27	16.91	4.36	11.85	10.98	0.87	10.90	7.96	10.37	3.89
	11歳	15.57	18.14	△ 2.57	12.40	10.58	1.82	10.02	8.69	5.55	3.71
中学校	12歳	14.83	13.32	1.51	12.48	11.46	1.02	10.65	8.54	4.18	3.94
	13歳	14.54	10.71	3.83	12.01	8.55	3.46	8.97	7.83	5.57	4.18
	14歳	12.65	11.09	1.56	11.24	11.86	△ 0.62	8.27	7.42	4.38	3.82
高等学校	15歳	18.30	14.49	3.81	12.51	11.83	0.68	11.05	8.08	7.25	4.43
	16歳	11.68	11.42	0.26	13.19	6.65	6.54	10.46	7.66	1.22	5.53
	17歳	13.10	13.64	△ 0.54	15.16	14.61	0.55	10.85	7.83	2.25	7.33

(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。

肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100%

図13 肥満傾向児の出現率グラフ(男子)

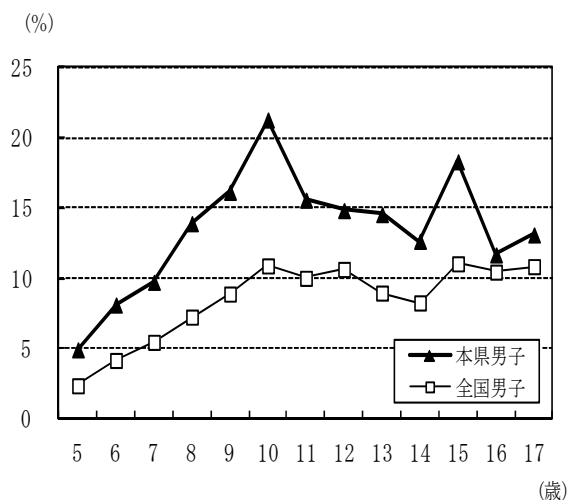
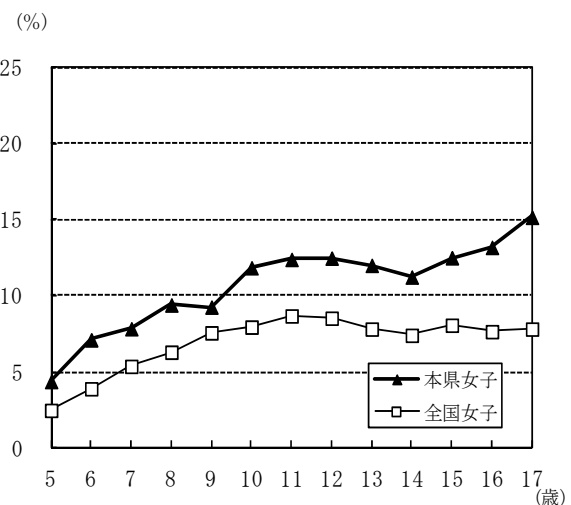


図14 肥満傾向児の出現率グラフ(女子)



2 痩身傾向児

男子の痩身傾向児の出現率は、6歳、8歳、9歳及び11歳から14歳で前年度より増加しており、11歳が2.68%で最も高くなっている。

女子は、7歳、10歳、13歳、14歳及び17歳の各年齢で前年度より増加しており、13歳が3.46%で最も高くなっている。

全国との比較でみると、男子は、6歳及び12歳から14歳の各年齢で、女子は7歳で、全国の割合を上回っている。(表19、図15、図16)

表19 年齢別 痩身傾向児の出現率

(単位：%)

区 分		本 県						全 国		本県と全国との差	
		男			女			男	女	男	女
		H25 (A)	H24 (B)	前年差 (A-B)	H25 (C)	H24 (D)	前年差 (C-D)	H25 (E)	H25 (F)	(A-E)	(C-F)
幼稚園	5歳	—	0.23	—	0.31	0.35	△ 0.04	0.36	0.34	—	△ 0.03
小学校	6歳	0.82	0.38	0.44	0.50	0.90	△ 0.40	0.39	0.62	0.43	△ 0.12
	7歳	0.10	0.14	△ 0.04	0.83	0.27	0.56	0.40	0.66	△ 0.30	0.17
	8歳	0.73	0.57	0.16	0.46	1.35	△ 0.89	0.98	1.06	△ 0.25	△ 0.60
	9歳	1.50	0.81	0.69	0.91	1.74	△ 0.83	1.78	1.90	△ 0.28	△ 0.99
	10歳	0.89	1.59	△ 0.70	2.86	2.34	0.52	2.48	2.89	△ 1.59	△ 0.03
	11歳	2.68	2.14	0.54	2.04	3.15	△ 1.11	2.90	2.74	△ 0.22	△ 0.70
中学校	12歳	2.61	1.05	1.56	3.02	3.29	△ 0.27	2.43	4.16	0.18	△ 1.14
	13歳	1.74	0.62	1.12	3.46	2.36	1.10	1.46	3.48	0.28	△ 0.02
	14歳	1.85	1.25	0.60	2.51	1.68	0.83	1.57	2.68	0.28	△ 0.17
高等学校	15歳	1.26	2.33	△ 1.07	1.05	2.14	△ 1.09	2.70	2.69	△ 1.44	△ 1.64
	16歳	1.11	1.96	△ 0.85	0.87	1.96	△ 1.09	1.88	1.98	△ 0.77	△ 1.11
	17歳	1.66	2.67	△ 1.01	1.38	0.23	1.15	1.84	1.72	△ 0.18	△ 0.34

(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下の者である。

図15 痩身傾向児の出現率グラフ(男子)

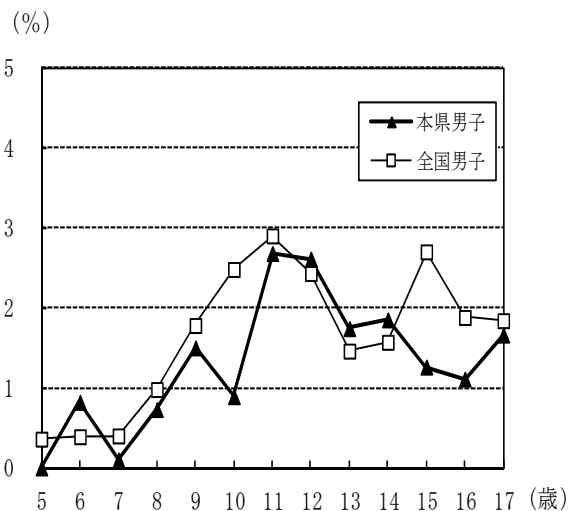


図16 痩身傾向児の出現率グラフ(女子)

